

人吉市周辺歴史散策コース（城下町コース）

城下町人吉の概要

人吉は人吉藩相良氏の城下町として栄えた。

市内中心部に熊本県唯一の国宝である青井阿蘇神社があり、

市の中心部は人吉盆地の西端で、[球磨川](#)が東から西に貫流する。市内では万江川・山田川・鹿目川・胸川など多数の支流が球磨川へ流れ込んでいる。

中心部は古くからの城下町の町並みが残っており、[小京都](#)と呼ばれる。

（自動車移動の場合）

- 1 2 : 0 0 人吉インター着
- 1 2 : 1 5 昼食（人吉名物の鰻や川魚を堪能）
- 1 3 : 1 5 鍛冶屋町通り
- 1 4 : 0 0 人吉城跡
- 1 4 : 4 0 永国寺
- 1 5 : 2 0 青井阿蘇神社
- 1 6 : 0 0 願成寺

（レンタサイクル利用の場合）

- 1 1 : 3 0 人吉インター
- 1 1 : 4 5 HASSENNBA HITOYOSI KUMA

（自転車をレンタル）

- 1 2 : 0 0 昼食（人吉名物の鰻や川魚を堪能）
- 1 3 : 1 5 鍛冶屋町通り
- 1 4 : 1 5 人吉城跡
- 1 5 : 0 0 永国寺
- 1 5 : 4 0 青井阿蘇神社
- 1 6 : 3 0 願成寺
- 1 7 : 0 0 HASSENNBA HITOYOSI KUMA

（自転車返却）

願成寺



史料によると現在の初代長頼の墓は相良家歴代の当主墓地の入口に存在するが、当初は現在の願成寺本堂の前にあったという。それを現在の墓の位置に移しその上に金堂を建てた。わざわざ初代長頼の墓を移したのが、18代義陽である。そう、三日月城（人吉城）の御館の位置を現在の相良護国神社の位置に決めた人物である。地図で俯瞰するとよくわかるのだが、三日月城の御館と願成寺の長頼の墓は丑寅の鬼門ライン上にぴったりと存在する。

永国寺



長い間、鬼門・願成寺に対して裏鬼門として城を護り続けてきた。鎌倉時代から武士の時代になり、同じ頃日本に導入された禅は武士と強く結びついた。禅の思想が武士の生き様と重なり合う部分が多かったからであり、さらに禅は茶や花や庭園など様々な文化を生み出していく。相良家においてもこの寺は相良家歴代の当主の修行の場、つまり当主養成所であったという。禅のみならず、様々な教養を習得する場であり、この寺で修行した18代義陽は戦さの強さのみならず、和歌にも通じ、部下思いの慈悲深い人物だったという。また、寺を建立した実底和尚（じっていおしょう）が描いたといわれる幽霊の掛け軸が現存しており、地元では別名“幽霊寺”とも呼ばれる。いわれによると、球磨川に身を投げ非業の死を遂げた女性が寺の裏の池に幽霊となって現れた。和尚は自身の導きにより成仏させようと和尚自ら霊の姿を絵に描き、霊に見せたという。霊は自身の姿に驚き、成仏に到ったという。禅では自身との対話を重点に置く。霊に自身の変わり果てた姿を見せて、自ら気づかせるという手法は、禅ならではの導き方ではないだろうか？現代では、人吉の夏の風物詩となっている「ゆうれい祭り」が地元の若手中心に行われている。

青井阿蘇神社



国宝。熊本県唯一の国宝建築物であり、日本最南端の建築物国宝。人吉球磨を代表する神の場所。806年阿蘇神社の分霊を勧請して創建。1198年相良家初代・長頼が氏神として祭る。北側から南に本殿、廊、幣殿、拝殿、楼門、五棟一連の御社殿は、相良家20代・長毎が江戸時代初期に造営したもの。一連の御社殿の貴重さゆえに、県内では初となる国宝に指定されている。

風水・陰陽五行説では、北西/天門に神社仏閣を建てた一族は未来永劫繁栄すると言われており、この天門に建てられた神社仏閣は国家守護の意味合いが強いと言われる。それゆえか、この神社は古来より人々が相当な思いをかけて作り上げているのがわかる。

神社の古い棟札には、創建の際は、風水思想に基づいて建立されたことが記されている。この神社で1200年続くと言われるおくんち祭りは、旧暦の9月9日、重陽の日に開催される。古代、人々はこの世界を解明すべく陽数と陰数を考え出した。奇数が陽数、偶数が陰数である。奇数の最大数である9の重なる日にこの青井阿蘇神社で神事を行ってきた。楼門には陰と陽の交わらない四隅を護る神面は日本唯一「人吉様式」が存在し、また気を溜める南の池、仏教における宇宙模型を表す須弥壇のデザインなど、数多くの風水・陰陽五行説が表現されている稀有の神社でもある。

人吉城



人吉城は市内中央部を流れる球磨川の南側に位置し、球磨川とその支流胸川の合流点の山に築かれており、北側と西側は球磨川と胸川を天然の堀とし、東側と南側は山の斜面と崖を天然の城壁として、巧みに自然を利用している。球磨川沿いに三の丸を配し、その南に二の丸、さらに丘陵上に本丸が配されている、梯郭式の平山城である。本丸には天守は築かれず護摩堂があったといわれる。

幕末に築かれた御館の石垣の一部には、ヨーロッパの築城技術である樺出工法（はねだしこうほう）を応用した「武者返し」と呼ばれる独特の石垣がある。この武者返しは城壁最上部に平らな石がやや突き出して積んであり、ねずみ返しのように城壁越えを阻止すると共に、割合簡単に落下させられるようになっており、城壁に張り付いた敵への攻撃にも使えるようにしている。この城壁は日本の城では他に函館の五稜郭と龍岡城にしかない（城以外も含めればお台場にも見られる）珍しいもので、いずれも人吉城の石垣程の規模ではない。